

平成27年度 大田区立洗足池小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育目標 ○考える子 ○思いやる子 ○元気な子 ○やりぬく子</li> <li>●児童数(平成27年5月1日) 11学級 260名</li> <li>●特色ある教育活動           <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動の推進、英語カフェ、英語集金などの取組</li> <li>・学期ごとの学校公開</li> <li>・放課後算数クラブ</li> <li>・土曜補習教室</li> <li>・読書タイム</li> <li>・1年生からの活動</li> <li>・完全ノータイム</li> <li>・30分間の休み時間</li> <li>・地域活動</li> </ul> </li> </ul>
--

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	<p>学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。</p> <p>算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。</p> <p>学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。</p> <p>外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。</p> <p>授業改善推進プランを、授業に生かす。</p> <p>「発表する」「話し合う」活動を取り入れ、思考力、表現力を高める指導を工夫している。</p>	<p>4: 12月に実施する保護者アンケートで、項目「学習したことを理解している」の肯定的回答の割合が90%以上</p> <p>3: 同 80%以上</p> <p>2: 同 70%以上</p> <p>1: 同 70%以下</p>	4	<p>○児童の習熟度を把握し、指導を工夫している。少人数指導による補習を行い、習熟度に課題がある児童の学力向上を図った。算数ステップ学習チェックシートについては、児童にはその都度伝え、成果を持ち帰らすが、保護者に直接知らせるのは、学期に1度である。</p> <p>○国際理解教育、外国語活動においてコミュニケーション能力を高めることを目指して研究を進め、12月4日に研究発表会を開催した。全国各地から500名以上が参加し、子供たちの活動や研究内容に高い評価を受けた。</p> <p>○全教科の授業に発表や話し合い活動を意図的に取り入れ、コミュニケーションの能力の向上を図ることができた。</p> <p>○授業改善プランに基づいて「授業改善ブック」を活用したPDCAを進めていくことで学習指導の充実を図った。</p>	<p>・日頃より、児童の習得度に応じた手と心を掛けている点が見られる。</p> <p>・12/4の学習発表会において児童の参加意欲、発言内容から、各々の成長が感じられた。研究発表会をゴールにした取組ではなく、コミュニケーションの促進という枠で、日常の授業外活動の段階から、各教員が児童の受発信を意識した施策を盛り込んでいたように思う。</p> <p>・学力向上のための指導方法がとてども丁寧なきめ細かく、児童が自発的に、積極的に授業が受けられるように努力されていると感じた。</p> <p>・確かな学力の定着ため、習熟度に応じた授業、少人数指導は大切で、成果につながっていると思う。</p> <p>・学習カルテやステップ学習シートの活用を図り、一定の成果を得られている。</p> <p>・改善策について、具体的なものが示されなかったが、PDCAの充実を図られるよう期待する。</p>
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	<p>小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。</p> <p>道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。</p> <p>学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。</p> <p>学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。</p> <p>問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。</p> <p>学校独自に作成している学習・生活アンケートを実施し、実態を把握するとともに児童一人ひとりの支援に生かす。</p>	<p>4: 11月に実施する児童の学習・生活アンケートで項目「毎日学校で生活することが楽しい」の肯定的回答の割合が90%以上</p> <p>3: 同 80%以上</p> <p>2: 同 70%以上</p> <p>1: 同 70%未満</p>	4	<p>○石川台中与生活指導について共通理解を図っている。また、学校とPTAと協働して「洗小のきまり」を作成し、保護者の共通理解を図った。「洗小江戸しぐさ」を活用した生活指導朝会の年間計画を立てた。週1度の生活指導連絡会では、情報交換を行い、問題行動には学校全体で解決を図るようにしてきた。</p> <p>○いじめ防止研修を年3度実施。いじめ防止に係る授業も各学級3度以上行った。早期発見に努め、疑いのある事象については、組織的に対応した。</p> <p>○道徳教育については、研修の機会を増やし、指導充実を図る。</p>	<p>・学校とPTAとが協働して作成した「洗小のきまり」は一歩踏み込んだよい試みであった。残念なことにきまりを出すまで終わっており、あとは家庭での運用に委ねてしまったため、浸透、または共通言語には至っていないと感じる。5月、10月、2月に各家庭で振り返る欄を作成していたので、担任からの働きかけで、家庭での振り返り結果を持ち寄ってクラスで話し合いを持たせる等の工夫があると、より深く定着するものと思える。</p> <p>・いじめ防止への対策は、学校ができる範囲ですべて対応していると感じる。</p> <p>・いじめ対策については、今年度はさらに具体的に取組まれていてよいと思った。</p> <p>・子供が自己肯定感をもって育つことへの様々な取組みがされていてよいと思う。</p> <p>・生活調査の活用、小中一貫の取組等評価できる。</p> <p>・道徳は、授業と教科化に向けた取組に期待する。</p> <p>・「洗小江戸しぐさ」はとても良い取組だと思う。児童の生活実態を把握した上での指導の成果が表れていると思う。</p>
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	<p>新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。</p> <p>「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。</p> <p>給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。</p> <p>体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。</p>	<p>4: 12月に実施する保護者アンケートで、項目「体力の向上と危険防止の方法を身に付けさせている」の肯定的回答の割合が90%以上</p> <p>3: 同 80%以上</p> <p>2: 同 70%以上</p> <p>1: 同 70%未満</p>	4	<p>○授業改善プランに基づいた体育科の授業改善を図った。2、3学期の「洗小チャレンジ」(一校一取組)では、体育朝会や休み時間のスポーツタイムで計画的、意図的に全校で長なわや短なわ、持久走を進めた。学級ごとに工夫して「一学級一実践」を進めている。</p> <p>○食育指導については、栄養士との連携を図り、さらに充実、改善を図る。</p>	<p>全校の体育朝会で実施した長縄記録会などを設けることで、児童たちが自ら目標を設定し、達成に向けて休み時間などの練習や話し合いをする方向に仕向けている工夫が見られた。その結果、学年、倉庫における役割分担が生まれ、豊かな心を育むに繋がる、お互いの得意不得意の補い合いが生まれていたように思える。</p> <p>・学力だけでなく体力、運動能力向上に、いろいろ工夫がなされていて素晴らしいと思う。今後も楽しく体を動かすことへの工夫に期待する。</p> <p>・食育を全教員で取り組むようにする。</p> <p>・早寝早起き朝ごはんは家庭での取組であり、保護者の協力のためものである。</p> <p>・給食指導の3の評価は、改善していく必要がある。</p>
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	<p>授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。</p> <p>授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。</p> <p>各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。</p> <p>学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。</p> <p>校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。</p>	<p>4: 学校公開週間の保護者アンケートで、「分かりやすい授業をしている」「活動が充実している」の2項目のA評価が60%以上</p> <p>3: 同 55%以上</p> <p>2: 同 50%以上</p> <p>1: 同 50%未満</p>	3	<p>○授業公開日に道徳地区公開講座、引き取り訓練、音楽会などを催し、多くの保護者に参観していただいた。</p> <p>○OJTの授業研修はペアで行い、授業力の向上に効果的だった。ステップアップ研修も若手の要望に応える内容で行い、授業改善、指導力を高めるようにした。</p> <p>○児童のパソコンでの活動を入れると、1か月に一度の活用はしている。ICT機器は各教員が活用している(児童のPCを使つての授業、活動を入れると、1か月に一度の活用は行っている。)が、学年や教師によって活用状況が異なる。</p>	<p>・伝統ある研究活動に加え、区や文科の研究棟、活躍している。ICTは、緩急が必要な要因と思われる。その中で、教員の努力に負うところが大きい。</p> <p>・教育環境向上のために先生方が大変な努力をしていることを保護者に理解してほしい。</p> <p>・ICTを活用した授業への取組評価が、昨年3つとなっている。4に上がるよう、期待している。</p> <p>・当該項目について、学校として打てる施策はとにかくやっているというイメージである。次への課題は、取組内容やねらいをいかに教師から児童に、管理職から家庭、地域へと和らぐ言葉で発信するか、また1年を振り返りその結果を同じく児童、家庭、地域に開示するかが、さらなる洗足池小の教育環境の向上につながるものだと考える。つまり、それを何度も繰り返すことによって、教職員のみではなく児童自身はもちろん、保護者や住民が【自分ごと】として、わが学校の環境づくりに巻き込んでいく工夫が必要になると感じている。</p> <p>・ICT活用については、引き続き他校の事例もさんこうに、教員同士でレベルを上げていってほしい。</p>
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	<p>教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。</p> <p>地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。</p> <p>学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。</p>	<p>4: 学校公開における保護者の参観率が世帯数換算で70%以上</p> <p>3: 同 60%以上</p> <p>2: 同 50%以上</p> <p>1: 同 50%未満</p>	4	<p>○HPはアップしやすいように改善し、月1回以上の更新はしたが、担当者が変わり、昨年度より少なくなった。組織の改善も行い、学校情報を効果的に発信できるようにする。</p> <p>○メールなども活用してスクールサポーターとの連絡を行うようにし、学校情報本部(SSS)の活動が活発になってきた。</p> <p>○9月に地域と連携して学校防災拠点校訓練を実施した。来年度も継続していきたい。</p>	<p>・HPの更新や防災訓練に一定の成果が表れていると思う。</p> <p>・地域の一員として、児童のために、よいよい環境づくり、防災関連の充実を橋梁したい。</p> <p>・年長児クラスと1年生との交流は、子供たちが安心して就学できる環境を作っていたらいいと思う。今後もより活発な交流、連携をお願いしたい。</p> <p>・引き続き、家庭や地域と連携した学校運営をお願いしたい。</p> <p>・当該項目においても学校としてできることは実施していると思う。あえて申すのであれば、洗小の児童にどう育ててほしいか(目的)とだれがどこまで責任をもつか(役割分担)が分からない限り、双方に遠慮が派生し、その結果、現場の先生方に負担がかかるという構図が変わらない気がする。将来的には、学校教育地域連絡協議会がこの項目を考える機関として機能するのが望ましいのかもしれない。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。